

会報 150号

令和3年3月18日 発行

大北地区賛助会報

大北地区賛助会

Tel:0261-23-6507



公益財団法人 長野県長寿社会開発センター

2月末 賛助会員数 大北地区 157名・県全体 2,047名

令和2年度、賛助会報の最終号となりました。

「新型コロナウイルス感染症」が瞬く間に世界中に拡がりました。一人ひとりが、マスクや手洗いの徹底、飛沫感染しないように人同士の距離を取るなどの対策を取りつつ、早期の「ワクチン・抗ウイルス薬」の対策が確立されることを願った一年でありました。

令和3年度、大北地区賛助会の活動は、どうあるべきかを問う時、会員の皆様の心情は複雑で計り知れないものがあると思います。苦しく、切ない状況になってしまいましたが、つまるところは、私たち一人ひとりが様々な事柄を、どれくらい納得し受容できるかに掛かっている気がします。そして、このような属性は他人から与えられるものではないとも感じています。

いずれにしましても楽しさを求め、「いっぽ歩」着実に前進したいものです。

事務局

会員講座が行われました 11/25(水)10:00~11:30

荒井 今朝一 先生
(大町市教育長)

於)大町合同庁舎 講堂



仁科氏の最後とその末裔たち

令和2年度県長寿社会開発センター歴史講座



仁科氏の「最後の城」と伝えられる森城



森城を描いた江戸時代の絵画



森集落を描いた昭和16年の絵画

荒井先生のご講義は、歴史上の人物が、その時、「こんな想像力」があったなら事態は大きく変わったのでは？との問いかけをされる内容が多々あり、……

今後に対する洞察力を磨くことへの重要性や自分の生き方を考えるヒントとなりました。



講座風景



～～令和2年度を振り返る「雑感」～～

大北地区賛助会 会報担当リーダー

吉沢 篤



令和2年度は、新型コロナウイルス感染症で明け、そして暮れた1年に終始した。3密対策、手洗い・マスクの着用励行の日々、計画されていた会議、イベントの多くは中止、当然のことながら飲食を伴う忘年会、新年会等も中止となった。

デジタル化と言うのか、学校の授業、入学式等もオンライン配信で実施する形式が導入されました。私も娘や孫たちと慣れないスマホで正月の会話をしたのも初めての出来事であった。コロナ禍は、今まで当たり前だった日常生活を我々から奪ったような気がします。

年賀状に「明けまして」と書き初めるのは希望があって初めて使う言葉だそうですが、そんな事とは知らず従来通りの挨拶状で差し出しました。菅総理は、年頭記者会見や非常事態宣言の際にも「国民の命と暮らしを守る」と発言していますが、経済の急落を危惧してか小出しの対策を講じているのは理解しがたく思います。

豊かさに慣れてしまうと本当の幸せが味わえないと言いますが、私にとって唯一思い出が出来ました。去年は喜寿(77歳)と金婚式の重なった年であり、11月中旬「go toキャンペーン」で和倉温泉へ妻と旅行出来た事を嬉しく思っています。千里浜なぎさドライブウェイを半数しか乗車していない貸切観光バスで能登半島を一周したことが、コロナ騒動の年の最大の思い出となりました。

さて、民主主義の最たる国だと思っていたアメリカで大統領選挙にまつわる長期に渡る混乱、究極の果ては、バイデン次期大統領の当選を正式に認定する連邦議会議事堂にトランプ大統領が扇動し、トランプ支持者が敗北を認めない乱闘事件を起こしました。民主主義の手続きが暴力によって中断される異例の事態です。アメリカは他国の批判、取り分け政治のことにに関して口を挟む余地は全くありません。米国民民主党は弾劾手続きを進める様相、成り行き不明だがホワイトハウスを去る直前の現職大統領の汚点であり大惨事であった。

一方、日本の政界に目を向けると政治家の金銭に関わる癒着問題が根絶せず発生している。取り分け、安倍前総理の絡む「さくらを見る会前夜祭」「加計学園」「森友学園」での度重なる国会での虚偽答弁。真摯に耳を傾け説明責任を果たさずとは口先だけのことば、長期政権のおごりとか野党の力不足等々で終結すべき事項でなく真実を明らかにすることこそ必要と思う。日本政界の中核での姿であり、若者に「希望を持って」と言っているけれど、政治の信頼を取り戻すことが先決だと思います。

結びに白馬村でもコロナ感染者が発生、また増加傾向に推移しています。当分の間は通常生活が不能となるので、村の図書館から借りた本を読んだり、自粛生活を強いられることを覚悟してコロナ感染の収束と政治の浄化を願いながら過します。



老人ホーム白嶺
落ち葉片付け

～～～ 各グループ報告 ～～～

大北地区賛助会 会長(松川グループ長)

高田 武

はじめに

会員の皆様には日頃、大北地区賛助会にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年のはじめ、日本国内で今迄経験したことのない新型コロナウイルス感染症に翻弄されて、私たちの家庭生活から社会活動に到るまで大きな変化をもたらしました。その影響もあり賛助会事業計画は延期や中止になり、ほぼ半分程度しか実施出来ず、誠に残念な結果となりました。我々高齢者の組織としては、無理な計画や実行はしない形で進めて参りましたので、一部の方々にはご不満になられたことと思います。その点についてはお詫びいたします。

新型コロナで気づいた事、得たことやもの

5割の実現結果でも実施状況は、かなりの価値のある内容でした。会員講座では講師の荒井大町市教育長に、ご無理なお願いをして実現でき、感謝しています。「仁科氏の最後とその末裔たち」の講演は大変興味深く、もっとお聞きしたい内容でした。そして、高齢者交流会(マレットゴルフ)の実施では徹底したコロナ対策のため、大勢の集まりは避け表彰式・閉会式なしにて楽しみました。自然の中で、のびのびと気分転換出来、又仲間の人達との交わりもでき、今後にとって良い参考事例になりました。

新しい将来への展望

この1年間の体験結果を参考に、来期に向けてその改善が始まっています。その1つ目は、長野本部と各地区賛助会の定例連絡会をオンライン会議で実施して我々は地元において参加します。今後、このスタイルは地区単位でも、どんな会議でも実施出来ます。2つ目は、長野本部中心に現在の「賛助会の課題検討会」がスタートします。そこで、魅力のある賛助会になるには何が必要か、どんな取り組みをすべきか。又、地区賛助会の役割は何で、どうあるべきか、についても1年間をかけて検討されます。終わりに来期に向け大北地区賛助会は会員が中心だけれど、会員以外の人とも交流する場や地域の垣根にこだわらず、活動していければと思います。皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、来年度もよろしくお祈りいたします。

大北地区賛助会 副会長(白馬・小谷グループ長)

柏原 武幸

昨年1月から発生した新型コロナウイルスの関係で、これほど大きく世の中に影響を及ぼすとは思いませんでした。感染拡大を防ぐ為、殆どの活動が自粛となり当支部においても幾つもの事業が中止、延期になりました。異例というか、特記すべき事項として白馬村では、この正月明けから40日の間に新型コロナウイルスの感染者が108人を超えました。外出、買い物など、なるべく控えている状況で一日でも早い収束を願っているところです。

当支部の状況を報告します。

- 1) 去る6月12日に特別養護老人ホーム白嶺での草刈りと車いすの清掃を16名で行いました。詳細は、賛助会報148号で掲載しました。
- 2) 同センターの秋の落ち葉片付けや一部雪囲いの作業は、11月12日に19名の皆さんの参加でした。作業の後は女性の皆さんが煎れてくれたコーヒーを飲みながら支部からの報告とお茶会をしました。
- ①11月25日に行われる荒井先生の会員講座 ②白馬岳入口の猿倉駐車場周囲のゴミ拾いは道路閉鎖のため中止 ③「セイタカアワダチ草」の駆除作業は今年は発生が少なかったため取り止め ④小谷村社会福祉施設「せせらぎ」などで、お手伝いすることがあればと伺いましたが、特にないということで、作業はしませんでした。

～～～ 各グループ報告 ～～～

大北地区賛助会 副会長(池田町グループ長)

松澤 周三

池田グループは、計画した高齢者施設でのボランティアも懇親の機会も持てず、唯一マレットゴルフと昼食会のみで終わっています。感染状況からはっきりした見通しも立ちませんが老人らしく念には念を入れて安全宣言が出るまでは「完全自粛」の覚悟です。

10年前から池田町の東山山麓の荒廃した桑畑の跡地でバラ園づくりに参加しました。Iターンの転入者が「花とハーブの池田町」の『どこが』の声に発奮して、じゃあ自分達でやってみようと「バラ愛好会」を結成しました。重機で桑の抜根から始め石を拾い地ならしをして、土や肥料を入れて英国風バラ園を目指しました。

管理は剪定、50m離れた水源からの水やり、草むしり、消毒、花殻摘み、枯葉の堆肥づくり等々2月から11月の間毎週集まっての作業。メンバーは高齢者でI.Uターン組、女性共働き経験者が多く作業中や終了時のお茶会の話題の豊富なこと、一挙に世界が広がりました。

自らもシニア大学や国営公園、長く勤めたJAのことなどを供し交流が拡大しました。

「バラまつり」には多い時には3千人もの来園もあって安曇野やアルプスの借景に「きれいなバラ、素晴らしい景色ですね、見せていただいてありがとう」の言葉が嬉しく励まされ老体に鞭打ってここまで来ました。

シニア大学のお陰で県の助成も得られ、ブロックを敷き詰めた車椅子通路が出来、お年寄りが花の側で匂いを嗅いだり触れて喜ぶ顔が「やって良かった」と思える瞬間でした。と同時に一度収めた税金を補助して貰う大変さ、三度のプレゼンテーションと煩雑な書類の提出、説明会でのピント外れの審査員のコメントなどを実感した。

ところがメンバー10歳としを取り、後継者も町の支援もなく刀折れ矢尽きて一部を隣接する花壇に移し閉園することにしました。

私なりに学んだコトは、

- ①「活動の場」は仕掛けに過ぎないので何でもいい。
- ②そこで出来るネットワークにどこまで関心を持って自分の世界を広げられるか。
- ③聞いた、知っただけでなく自らの行動にどう繋げられるか。
- ④できれば少し人のお役に立てれば最高だ。立ち上げも大変だが終わりはもっと大変、小さいが歴史を作った細やかな満足感もある。



バラ園

